

Hiroyuki Yamada
Photography
Exhibition
山田博行写真展
— 記憶のトレース —

平成29年4月22日(土)～6月4日(日)
長岡市枋尾美術館

〒940-0237 新潟県長岡市上の原町1-13 TEL:0258-53-6300
http://www.lib.city.nagaoka.nigata.jp/?page_id=135
月曜休館 | 9時～17時(観覧券の発売は16時30分まで)
一般400円(300円) / 大高生200円(150円) / 中学生以下無料
*()内は、20名以上の団体料金

〔主催〕長岡市教育委員会・長岡市
〔後援〕新潟日報社 / 読売新聞新潟支局 / 朝日新聞新潟総局 /
毎日新聞新潟支局 / 長岡新聞社 / 枋尾タイムズ社 / BSN新潟放送 /
N S T / TeNYテレビ新潟 / エフエムラジオ新潟 /
株式会社エヌ・シー・ティ / FMながおか 80.7
FM PORT 79.0 / FMザ・ノース・フェイス
〔協賛〕ザ・ノース・フェイス

写真家・山田博行は広告や雑誌の仕事と平行して、国内外の自然風景と人々の暮らしなどを独自の世界観で捉えてきました。本展では「記憶のトレイス」というテーマを掲げ、〈Flake〉、〈Waterproof〉、〈Cabin〉の3シリーズを展示し、作家の世界観と意識に迫ります。

〈Flake〉では、作家のイントロダクションとして、断片的に過去の国内外の旅で撮影された作品を作家の回想録とともに紹介します。

15年間に渡るアラスカへの冬季山岳滑降遠征の末に辿り着いたテーマが、2012年より制作を開始した〈Waterproof〉です。厳冬期のいくつかの氷河帯に身を置き、時間をかけて撮影された数々の作品からは、自然が放つ氷の碧色が、目前まで迫ってくるように感じられます。地球温暖化により枯渇していく氷河と、失われゆく色。氷河の碧い色は地球に残されたかけがえのない色のひとつでもあり、フィルムにおさめられたその自然色は、未来への記憶として、伝えられていくことでしょう。また、2016京都国際写真フェスティバル KYOTOGRAPHIE のサテライトイベントとして展開された〈Cabin〉は、作家自身の「空間や時間の記憶」に繋がるそれらの窓の「体験の記憶」をたどり、記憶から景色を描写するという試みのもと、人は何を見ているのか、何を感情や記憶として残すのか、をテーマに制作された作品です。過去に世界の山岳地帯の僻地(へきち)や森に滞在した記憶に深く刻まれた山小屋(cabin)の窓から見た景色、あの時、あの時間に戻るべく、写真機を使って、窓の外にたたずむ静かな自然の気配を再現することが、写真表現の焦点を再考する独自のアプローチへと繋がっています。

山田博行 / やまだひろゆき

1972年生まれ、写真家。新潟県柏崎市出身。武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。広告やTVCM撮影で活動する傍らアラスカをはじめ、中南米、アフリカなどを取材。2013年 ジャパンフォトアワード受賞、2016年 NHK連続テレビ小説べっぴんさん主題歌Mr.Children「ヒカリノアトリエ」のCDジャケット撮影担当。現在長岡市在住、長岡造形大学視覚デザイン学科准教授。著書に「Tuesday」(Bueno! Books)がある。

» EVENT

I. 山田博行ギャラリートーク

5月20日(土曜日) 15時～

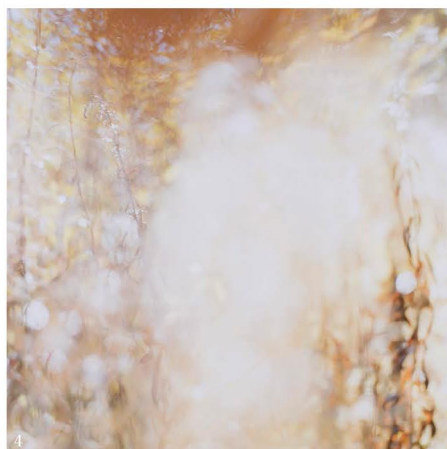
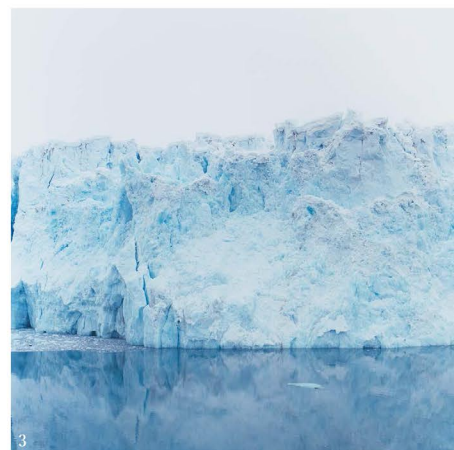
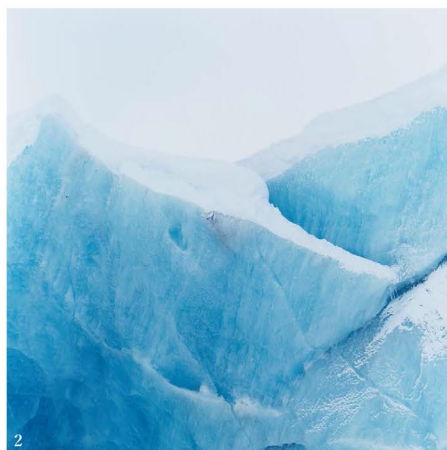
約1時間/要観覧料/申込不要

II. イリエカズヲコンサート

5月27日(土曜日) 15時～16時

要観覧料/申込不要

*音楽家イリエカズヲによる写真空間の即興演奏



Front / 1 / 2 / 3 » 〈Waterproof〉 2012, Archival Pigment print 118cm×165cm
4 / 5 » 〈Cabin〉 2016, C-print 50cm×50cm

長岡市栃尾美術館 Nagaoka City Tochio Art Museum

〒940-0237 新潟県長岡市上原町1-13
TEL:0258-53-6300 FAX:0258-53-6370

